

「日銀の独立性尊重を」

総裁、安倍氏主張に否定的

日銀の白川方明総裁は20日、金融政策決定会合後の記者会見で、日銀による建設国債の買い取りなど自民党の安倍晋三総裁が提唱している大胆な金融緩和策について、「一般論と断ったうえで否定的な考えを示した。日銀への政府の関与を強める日銀法改正などの主張には「中央銀行の独立性を尊重してほしい」と述べ、慎重な議論を求めた。

(白川日銀総裁会見の要旨5面に)



記者会見する白川日銀総裁（20日、日銀本店）

衆院選

'12

「やっぱおごりなごころの最上位」
日銀の白川総裁は政府が公共事業のために発行する建設国債を日銀が全額買い取る案に、一般論と断ったうえで「国際通貨基金（IMF）が発展途上国に助言する際に、やってはいけないことのリストの最上位だ」と強い懸念を示した。

日銀が反論する背景には、過去の歴史がある。戦前、軍事費を賄うために導入された日銀の国債引き受けは、戦後の超インフレを招いた。国が安

易に財源を確保できる手法だけに、いったん導入すれば「歯止めがきかなくなる」（白川総裁）との懸念が強い。「国民が望むのは、単に物価だけが上昇する状態ではない」
安倍氏が提案した2%

3%のインフレ（物価）目標については、バブル期の1980年後半でも物価上昇率は平均1.3%だったと説明。「3%は現実的でなく、悪影響が大きい」と反論した。国民は物価だけの上昇ではなく、雇用や賃金など経済全体の改善を望んでいると指摘し、成長力強化へ政府も構造改革に取り組むよう求めた。

上している日銀法改正論議をけん制した。中銀を「中央銀行は経済における目覚まし時計」
白川総裁は「中央銀行の独立性」を尊重すべきだとして、自民党内で浮

安倍氏の知恵袋 連なる緩和論者

元官邸メンバーら

野田佳彦首相も20日、日銀による建設国債の買い入れについて「禁じ手だ。建設国債も赤字国債も借金には変わりなく、日銀に引き受けさせるのは経済政策として間違っている」と重ねて批判した。訪問先のカンボジアで記者団に答えた。

一方、安倍氏は同日夜、都内の会合で「エール大の浜田宏一教授からきょうファクスが届いた。『非

常識なのは野田首相の方だ』と。まさに金融の泰斗にお墨付きを頂いた」と応戦した。浜田氏は安倍氏が森、小泉政権で官房副長官を務めたときの内閣府経済社会総合研究所長。安倍氏は同日夜、フェイスブックでファクスの内容を公開し、「私は国債の直

接買い取りとは言っていない」と反論した。安倍政権時代の経済ブ

レインには当時、経済財政諮問会議の民間議員だった伊藤隆敏東大院教授もいた。伊藤氏は「インフレ・ターゲットینگ」と題する著書もある。頻繁に名前が挙がるのが高橋洋一嘉悦大教授。2006年の安倍政権で首相補佐官補として官邸入りした元財務官僚で、第三極の日本維新の会やみんなの党のブレインも務める。竹中平蔵元経済

白川総裁の記者会見での主な発言

- 国債引き受け
財政ファイナンスという誤解が出ると实体经济にも悪影響が出る
- 3%のインフレ目標
現実的ではないし、経済に対する悪影響が大きい
- 日銀法改正論議
十分時間をかけて慎重な検討が必要だ
- 日銀当座預金の金利をマイナスに
額面が保証され、マイナス金利がつかない銀行券に大規模な資金シフトが生じる
- マネー供給拡大すればデフレ脱却できる
問題は量ではない。実際に使われるマネーの回転速度を上げていく政策が大事

「覚まし時計」にたとえ、政治の都合で止めては役割を果たせなくなると指摘。中銀の独立性は「長い歴史の中から、国際的にも確立された」と主張し、政治の安易な介入に警鐘を鳴らした。市場は衆院選後の12月か1月にも日銀が追加緩和

和に踏み切ると織り込み始めた。東短リサーチの高藤出氏は「選挙直後は政治圧力が高まるうえ、米国でも追加緩和観測があり、内外環境がともに日銀に緩和を求めやすくなる」と指摘する。国債などを買い入れる基金の規模を現行の91兆円から5兆〜10兆円拡大する案が有力視されている。緩和観測が強まり、外国為替と株式市場の基調は円安・株高に転じた。ただ、国債市場の反応は薄く、長期金利は0.73%台でほぼ横ばいで推移している。

財政担当相と親しい。高橋氏は20日、日本経済新聞の取材に「安倍氏悲観論者に格好の円売り材料を与えた。BRIC

る」と語った。安倍発言は市場の日本悲観論者に格好の円売り材料を与えた。BRIC

Sの命名者、米ゴールドマン・サックス・アセツト・マネジメントのジム・オニール会長が16日に配信したレポートの題名は「ウィー・ウォント・アベ!」。「3%のインフレ目標は1990年代後半に円安に賭けて大金を失った海外勢が日本に勧めてきたこと」と紹介したうえで「向こう数カ月で円は急落する可能性がある」と指摘した。